琉球大学医学部附属病院・地域医療部の紹介

琉球大学医師会
琉球大学医学部附属病院地域医療部　稲福　徹也

皆様こんにちは、本日は琉大病院・地域医療部の紹介をいたします。この原稿は瀧下修一病院長から「地域医療部の活動と、特に地域医療連携について書いてほしい」との依頼で書いています。地域医療部はこれまでの業務に加え、平成16年度から新たに医療連携・退院支援業務を開始しました。大学病院における病病連携・病診連携の要（かなめ）を地域医療部に担ってほしいという病院長の願いがあるものと理解しています。

地域医療部の活動は、①総合診療センターを支援する形で総合診療科外来の診療、②医学部学生や研修医に対するプライマリ・ケア教育、③医学教育・医療連携に関する研究、そして④地域医療連携に関する業務です。大学病院の使命はよく診療、教育、研究の3分野であると言われ、当院第一内科の藤田次郎教授はこの3分野をマリナーズのイチローのようにバランスよくこなすのが目標だとおっしゃっています。しかし、部員が少なくかつ不器用な地域医療部ではその3つをバランスよくこなすのは困難で、特に大学病院におけるプライマリ・ケア教育というのが当部に課せられた使命と考えて最も力を注いでいます。

プライマリ・ケア教育

平成16年度から卒後臨床研修が必須化され、初期研修でプライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身に付けることが強調されます。しかし、地域医療部が目指すプライマリ・ケア教育は少し違います。簡単に言うと将来開業医（かかりつけ医）や離島診療所医師として“地域”に根ざした医療を実践できる医師の養成を目指しています。卒後教育についてはRyuMIC卒後臨床研修センターと協力し、本島内や離島の診療所、中小病院などへ研修医を派遣しています。卒前教育についてはM4学生の「地域医療／プライマリ・ケア」の10コマの講義のうち5コマは外部講師に依頼し、離島診療所を経験された先生や現在開業医として活躍されている先生に講義していただいています。またM5学生の「地域医療／プライマリ・ケア」の実習では、2日間のうち1日ないし半日は開業医の先生の所で訪問診療や外来の見学、訪問看護ステーションでの在宅訪問へ同行させてプライマリ・ケアを体験させています。医学部学生はポリクリ（臨床実習）のほとんどを大学病院内で過ごし、それ以外の医療に触れる機会があまりありません。学生からの反応は、初めて体験するクリニックの外来診療や訪問診療に触れて、先生方の患者さんに接する態度や医療に対する真摯な姿勢、患者さんの大学病院とは違う生き生きとした表情に新たな驚きと感動をおぼえて、とてもよい影響を受けています。中には入学以来忘れかけていた自分の理想の医師像を再発見し、プライマリ・ケア医への道を目指す学生もいます。講義は院外講師という形でお願いしていますが、実習はボランティアで引き受けていただいているのが現状です。協力いただいた先生方には学生からの感謝の気持ちやポジティブフィードバックが医学教育への大きなモチベーションになっているようです。学生にお礼の手紙やレポートをきちんと書くように指導することが、今後の地域医療実習の発展につながると信じています。

スキルス・ラボ

スキルス・ラボで自習する医学部学生

大学内での活動の一つは「スキルス・ラボ」の運営です。近年医療の安全性が強調されるようになり、学生や研修医は人形などで十分なトレーニングを受けた後に実際の患者さんに接するというふうに、段階的に診療技術を習得するようになっています。その1つが多くの診察シミュレーターを備えた「スキルス・ラボ」です。そこには心音聴診用の「イチロー君」、呼吸音聴診シミュレーターの「ミスターラング」、直腸診、前立腺触診モデル、乳房診察モデル、眼底診察シミュレーター、耳診察訓練模型、静脈血や動脈血の採血・小児の採血モデル、気管挿管用人形、AED兼練習用モデルなどさまざまなトレーニング用人形があります。また、プライマリ・ケアに関する図書、ビデオやDVDも数多くそろえています。現在主にM5学生の実習に使用していますが、研修医、指導医にも広く解放しておりますので、興味のある方は地域医療部までご連絡下さい。

模擬患者参加型医療面接セミナー

写真左端の壁に付いている白い箱がビデオ撮影用カメラ

医学教育においてコミュニケーションスキルの習得はますます重要性が高まっています。学生・研修医をはじめ医療従事者のコミュニケーション能力の向上を目指して、月1回のペースで医療面接セミナーを開催しています。模擬診察室において数名のボランティアの方々に模擬患者を演じてもらい、学生たちが医療面接のロールプレイを行います。その様子をテレビモニターで見ながら、参加者全員がコミュニケーションについての理解を深め技術向上を目指すという体験型学習法です。模擬診察室はビデオ撮影・録画もでき、自らの医療面接の場面をビデオで振り返ることが可能です。参加した学生からは自分の面接の仕方について、多方向からポジティブフィードバックを受けて面接に自信がついたとコメントをする学生もいます。第一線で活躍されている先生方も自分の姿を振り返り明日からの診療に役立つと思われるので、参加ご希望の方は地域医療部までご連絡下さい。

地域医療連携

地域医療部では、平成16年に医療ソーシャルワーカー（MSW）1名、退院支援看護師2名が新たに配置され本格的な医療連携・退院支援業務を開始しました。業務分担としては、他機関からの照会・問い合わせ、診療協力依頼への対応、紹介医への連絡などは、主にMSWが担当し、退院支援に関することや逆紹介の手続き、地域医療機関、福祉関係機関との連絡調整は、主に退院支援看護師が行っています。連携業務の中で他機関からの紹介状に対する返書作成は最も重要と考え、返書作成率の向上をめざしてIBMと共同で開発したプログラムを使用して来院報告書や情報提供書の発送を行っています。このシステムは、他機関からの紹介状は、まず医療支援課（医事課）受付で開封され基本情報が入力されます。診療担当医は患者の診察後オーダリング端末を使用して紹介元へのコメントがあれば入力します。入力されたコメントは翌日に「来院報告書」として出力され、地域医療部で発送しています。また、担当医は中間、最

終報告の診療情報提供書もこのオーダリングシステムを利用して入力することが出来、①その場でプリントアウトして各診療科で活用する、②地域医療部に発送を委託するのどちらかを選択することが出来ます。皆様のお手元に届く窓付き封筒の来院報告書や診療情報提供書の大半は地域医療部から発送しているものです。

地域医療部への連携に関する問い合わせ件数は年々増加しており、院外からは主に連携担当者・ケアマネ・MSWからの連絡・問い合わせが多く、院内からは医師からの連絡・問い合わせが多いです。このような連携業務の場にはさまざまな問題が持ち込まれることも多く、重要なものは週一回の地域医療部ミーティングで取り上げ、部長を通じて病院長に報告することもあります。また、地域医療部イコール連携室ではなく、業務に関して医療支援課（医事課）と重なる部分があります。今年度に就任した村山貞之部長（併任：放射線科教授）の提案により、月1回医療支援課との合同ミーティングを開催し双方の問題解決に努力しています。

退院支援は2名の退院支援看護師が中心となり活動しています。大学病院での治療が一通り終了した患者さんが納得の上、スムーズに在宅や施設への療養に移行できるように支援しています。各病棟に入院時スクリーニング票を記入してもらい、その中から地域医療部へ退院調整依頼をすべき患者さんの選別とその手順を徹底しています。当部では退院に難渋するケース、社会福祉的な支援が必要なケースを担当し、依頼件数は年々に増加しています。依頼の内訳は「転院・転施設に関すること」が6割、「在宅退院調整」が2割です。退院調整を行う中で他機関と連絡を取り合うことが多く、ここからもさまざまな連携に関する情報を吸収することが出来ます。

地域医療教育支援セミナー

地域医療連携の促進を支援する目的で平成16年度から年2回のペースで院内外の医療関係者を対象に「地域医療教育支援セミナー」を開催しています。これまでに行った講演会の題目と講師を示します。参加者は院内外ほぼ半々で、主に医療連携に熱心な医師、看護師、MSWの参加が多いです。今後も定期的に開催して医療連携の勉強の場を提供したいと思います。

第1回　向原茂明先生
（長崎県立島原病院　病院長）
「地域ヒューマンネットワークに根ざした地域連携の実践」
2005年3月11日

第2回　野村一俊先生
（独立行政法人国立病院機構熊本医療センター　統括診療部長）
「連携パスの開発と地域展開について」2005年9月30日

第3回　佐伯俊成先生
（広島大学病院医系総合診療科助教授）
「がん患者と家族の心のケア　ー上手に聴く方法11か条ー」
2006年1月21日

第4回　平井愛山先生
（千葉県立東金病院　病院長）
「地域医療連携と電子カルテ　ー人材育成ヒューマンネットワークが鍵」
2006年9月29日

第4回地域医療教育支援セミナーの講師としてお招きした平井愛山先生を囲んで

琉大病院・地域医療連携連絡協議会

もう一つ地域医療連携に関する取り組みとして、平成17年度から他機関の施設長に参加していただき、地域医療連携連絡協議会を開催しています。第1回目は過去半年間に紹介患者が多かった2病院の病院長にご参加いただき、琉大病院の運営に関するさまざまなご意見を伺いました。今後もこの会を発展させ、琉大病院の果たすべき役割をご教示頂きたいと考えています。

このように地域医療部は連携業務を開始してから、院内外からのさまざまな連携に関する情報が集まる部署となりました。その利点を生かして連携担当という立場から、琉大病院の果たすべき役割、進むべき方向について必要な情報を病院のトップに発信しつづけたいと思います。　以上

琉球大学医学部附属病院　地域医療部
医療連携担当　TEL：098-895-1359（直通）
教育・研究担当　TEL：098-895-1331（直通）

お知らせ

日医白クマ通信への申し込みについて

さて、日本医師会では会員及び、マスコミへ「ニュースやお知らせ」等の各種情報をEメールにて配信するサービス（白クマ通信）をおこなっております。

当該配信サービスをご希望の日医会員の先生方は日本医師会ホームページのメンバーズルーム（http://www.med.or.jp/japanese/members/）からお申し込みください。

※メンバーズルームに入るには、ユーザーIDとパスワードが必要です。（下記参照）
不明の場合は氏名、電話番号、所属医師会を明記の上、info@mm.med.or.jpまでお願いいたします。

ユーザーID
※会員ID（日医刊行物送付番号）の10桁の数字（半角で入力）。
日医ニュース、日医雑誌などの宛名シール下部に印刷されているID番号です。
「0」も含め、すべて入力して下さい。

パスワード
※生年月日6桁の数字（半角で入力）。
生年月日の西暦の下2桁、月2桁、日2桁を並べた6桁の数字です。
例）1948年1月9日生の場合、「480109」となります。